

福岡市立病院機構における
重要課題等の進捗状況

- 1 「ふくおかハウス」の増室工事完了について
- 2 バス営業所の開設に伴うこども病院敷地内施設等の改修完了について
- 3 福岡市民病院のあり方検討について

1 「ふくおかハウス」の増室工事完了について

福岡市立こども病院に隣接する患児家族滞在施設「ふくおかハウス」について、利用する患児家族の増加に伴い、満室のため利用をお断りするケースが発生していたことから、平成31年4月より増室工事を行っていたもの。

(1) ふくおかハウスの概要

- ①開所日：平成27年5月1日
- ②場所：東区香椎照葉5丁目1番2号
- ③延床面積：1,509.15㎡（鉄骨造・2階建、21室）
- ④利用料金：1,000円/人・日
（別途、リネン料176円/日、駐車場300円/日）
- ⑤運営：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン



(2) 増室内容等

- ①全部屋数：16室→21室（5室増室）
- ②増室工事内訳と利用開始日

	施工前	施工後	利用開始日
1階	図書室	ツイン（1室）	令和元年8月26日
		シングル（1室）	
2階	大部屋ツイン	ツイン	令和元年8月22日
		ツイン（1室）	
	—	ツイン（1室）	令和元年9月21日
		ツイン（1室）	

◇1階増室箇所



◇2階大部屋ツイン増室箇所

- ③工事費総額：59,673,000円（税込）

※建物の所有者である病院機構と財団で、現行の持分に応じ、それぞれ2分の1を負担。

2 バス営業所の開設に伴うこども病院敷地内施設等の改修完了について

平成31年3月のこども病院北側隣接地への西鉄バス営業所開設（平成31年3月16日開業）に伴い通行車両の安全確保を図るため敷地内施設等の改修を行った。

（1）工事内容等

①交差点部のゼブラゾーンの拡大による、緊急車両等の通行スペース確保。
内容：交差点出入口の進入路線形の変更、敷地境界構造物の撤去 等

②南側出口の双方向化による、交差点出入口の一般車両の分散化。
内容：看板等付替え、路面標示変更工事 等

（2）費用負担

西鉄が改修工事費全額を負担

（3）位置図及び完成後写真



（4）効果等

営業所の開設により、利用可能なバスの便数が増加し、こども病院の利用者の利便性が向上した。さらに、令和2年夏にはこども病院に隣接する住宅・商業施設付近にバス停（ロータリー）が新設される予定である。

3 福岡市民病院のあり方検討について

(1) これまでの経緯

- 平成 元年 5 月 開院
- 平成 20 年 6 月 福岡市病院事業運営審議会答申

(抜粋)

繰入金が増大するなど経営改善の達成状況が不十分な場合や、施設老朽化の時期においては、医療環境や財政状況など諸条件を踏まえて、市民病院のあり方について、再度検討する必要があると考えられる。

- 平成 20 年 9 月 福岡市議会決議

(抜粋)

新病院は、「小児・周産期医療機能」に「成育医療機能」を併せ持つ市民のための病院とし、将来的に高度先進医療などの機能拡充についても検討すること。

現在の市民病院については、地方独立行政法人へ移行後に、検証及びその結果を経て、その在り方について検討すること。

- 平成 20 年 12 月 新病院基本構想策定（市民病院は現施設を活用して存続）

(2) 現在の状況

- 平成 22 年の地方独立行政法人福岡市立病院機構設立以降、第 1 期・第 2 期中期目標期間を経ており、上記の福岡市病院事業運営審議会答申及び福岡市議会決議を受けた独法化による効果の検証が必要な時期となっている。
- 市民病院は平成元年竣工で、ハード面からも将来に備えた検討が必要な時期である。
- 平成 26 年に国において地域医療構想が制度化され、2025 年のあるべき医療提供体制の実現に向け、病床機能転換の推進を図っており、公立病院については、民間の医療機関に先駆けて、役割の明確化や病床機能の見直しなどが求められている。
- 現在、経営改善の達成状況や独法化による効果などの市民病院の現状、地域医療構想・公立病院改革や医師の働き方改革等の公立病院を取り巻く大きな医療環境の変化などを勘案し、これを反映させながら、必要な分析や課題の整理を進めている。

(3) 今後の予定

- 福岡市立病院機構と協議しながら、資料収集、情報分析、整理
- 国や福岡県の動向などを情報収集
- 市民病院の将来のあり方について、諮問に向けた資料作成
- 福岡市病院事業運営審議会へ諮問